



# 南舞岡小だより

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

## 第3の「感染症」を防ぐ

児童支援専任 立川 具公

日頃より、学校教育へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。学校便りの4月号でもご挨拶させていただきました児童支援専任の立川です。横浜市では児童支援専任が全校に配置され、今年で6年目となりました。児童支援専任は、児童の皆さん一人ひとりが安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、児童の健全育成に向けて授業をしたり、児童や保護者の方と教育相談を行ったりと、全校児童にかかわる仕事をしています。また、特別支援教育コーディネーターとして、学習や学校生活など、様々な場面で支援が必要な場合に、児童や保護者のみなさんや教職員、関係機関が有効に連携できるようにコーディネートも行っています。7月の個人面談では、専任として同席させていただき、より良い支援の方法について、保護者の方と一緒に考える時間をもつことができました。ご心配なことがありましたら、ご連絡下さい。

さて、3年生以上を対象に「新型コロナウイルスに関する差別・偏見の防止に向けた授業」を行い、感染症の予防方法について、及び、感染症がもたらす偏見や差別について指導しました。授業の冒頭では、病気自体の心配とともに、完治した後に登校しにくくなるのではないかと不安に感じていると話す児童がいました。感染症の予防については、学校再開時の6月1日に指導するために本校で作成した動画を再度視聴し、今行っている自分の対応を見つめ直すきっかけとしました。また、偏見や差別については、日本赤十字社が公開している資料を一部編集したものを提示しながら、話をしました。授業の最後に、文部科学大臣からのメッセージを私が代読しました。誰もが感染する可能性がある病気なので、感染した人を責めるのではなく、思いやりの気持ちをもってかかわっていくことについて触れられたものです。文部科学省のホームページのリンクを、文末に掲載しますので、ぜひ、ご一読ください。

学習後に書いた高学年の児童の振り返りの中には、「病気自体の被害もさることながら、感染症により偏見や差別が起きてしまうことも同じくらい恐ろしいことだ。」と書かれていました。また、「病気にかかってしまうことは、ウイルスの影響なので仕方がない部分があるけれど、差別は人がつくるものだから、自分たちの行動で差別をなくしていきたい。また、困っている人を支える自分になりたい。」などという思いを抱いた児童もいました。感染拡大が収まらない中、第1の「感染症」に対応するとともに、それ以上に第3の「感染症」を防いでいく必要があります。ご家庭で話し合うきっかけとしていただけると幸いです。

<参考資料>

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～ (日本赤十字社)

[http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326\\_006124.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)

<文部科学大臣からのメッセージ>

新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて (令和2年8月25日)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/coronavirus/mext\\_00122.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00122.html)

